

学校図書館支援センター通信 NO.50 12月号

平成23年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

学校図書館を活用した公開授業研究会

「言語活動の充実」を図るために、各学校では教育活動全体を通じた読書活動の推進や学校図書館の計画的な利活用、さらに言語環境等に留意しながら日々の授業を展開されていることと思います。

10月3日・31日、11月2日・4日、12月1日に、文部科学省研究委託事業協力校の、大洲小学校・第七中学校・鶴指小学校で今年度2回目の授業研究会が行われました。

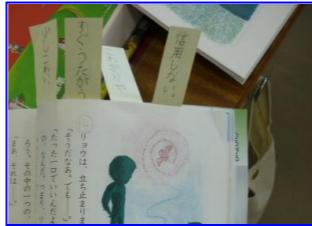
大洲小学校の3年生は、自分の考えを「付箋紙」に書き、本文に添付しながら登場人物の気持ちに寄り添い、より深く読む学習をしていました。

第七中学校では国語だけでなく、新聞の「ちらし」を取り入れた社会科の授業や、「元素」について調べた事をまとめて発表する理科の授業が展開され、多くの教科で幅広く学校図書館が活用されていました。

鶴指小学校では、教室に配布されている新聞を使って季節を感じられる俳句を作ったり、自分たちでテーマを決めて選書した本を用いた読書発表会をしたりしていました。

市内では協力校以外にも、学校図書館を活用した、たくさんの授業研究会が行われています。

学校図書館は、「本を読む」だけでなく「授業のねらいを達成するために活用する」場所です。今後も授業のねらいをよりよく達成するために、学校図書館の活用方法について考えた授業研究を重ねていただきたいと思います。



図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

読み聞かせは、心と心のキャッチボールですね。上手に届けば破顔やキュンとした緊張感が帰ってきます。

一年生の最初は「キャベツくん」や「ルラルさん」。笑顔が弾けます。今の時期二年生は「じぶた」や「やえもん」の淋しさや困惑に心を傾け、三年生は「島ひき鬼」や「スーホ」の喜怒哀楽を受け止めていきます。四年生の国語「一つの花」の学習の後は「すみれ島」を届けます。室内が三十人の心の共鳴で満杯になる一瞬、作者の凄さと子どもたちの心の育ちを思います。

曾谷の子どもたちの描画や合唱に、豊かな感性を垣間見る時、さらに読解力を磨くための支援をしていきたいと思うこの頃です。

(曾谷小学校 学校図書館員 古川 泰子)



続・路子の部屋

紙芝居型「プレゼン用カード」はどの子も使える簡単なツール！

教科書には、テーマを決めて情報を集め、それらをまとめて発信する単元が多く見られます。これらをあまり時間をかけずに可能にするのが、「プレゼン用カード」です。

「プレゼン用カード」といっても、B6あるいはA6サイズの手紙のサイズです。これを児童・生徒に1人当たり数枚ずつ用意します。【別紙を添付しますので、授業等でご活用ください。】

小学校低学年の国語の教科書にも載っている内容ですが、論文の書き方をカード化したものです。これを小グループで、紙芝居のように見せ合いながら、簡潔に説明しようとする立派なプレゼンテーションになり、同時に調べた内容をまとめることができます。

- ポイント1 調べた情報カードから必要なものだけを選ぶ。(情報の取捨選択)
 - ポイント2 まとめは「わかったこと」あるいは「考えたこと」どちらでも良い。
 - ポイント3 簡潔に短く、大きめの文字で書くようにする。
 - ポイント4 メモや原稿は作らず、プレゼンカードだけで伝え合う。
 - ポイント5 枚数は、学年に応じて増減する。
- 交流するときには、何度か話し方を練習し、相手への見せ方も工夫させてください。



演劇・群読・調べ学習 様々な取り組みを展開～福栄小～

福栄小学校では11月を「秋の読書月間」と位置付け、日頃の読書活動に加えて『読書貯金通帳・読書交流・読書郵便』等、様々な活動が行われました。右の写真は学年ごとに日頃の読書活動で培われた力や学習体験を生かす場として開催された『読書発表会』の一場面で、6年生による英語劇『MOMOTARO』です。脚本作りから演出まで全て6年生の手で行われたそうです。体育館中が劇場となり、会場内は楽しい演技と観客の歓声に包まれました。



この他にも学年ごとに劇や歌・語り等を取り入れ、趣向を凝らした発表があり、時間の経つのも忘れて見入ってしまうほどでした。継続的に読書教育に取り組んできた積み重ねと、読書活動を通して身につけた学習の深まりや広がり、発表内容に生かされていました。



また、「論語（解説付き）」の群読を全校集会で行ったり、「人体」をテーマに、様々な角度から「調べ学習」を楽しみながら行ったりしました。約1ヶ月に渡り、授業中や休み時間を使って、1年生から6年生で構成したグループにわかれて、紙に書かれた人骨を切り抜いたり、図書委員から体の不思議についての説明を受けたりと、読書を通して科学の目が養われる取り組みが行われました。それらの活動の中で子どもたちは、本の楽しさだけでなく、新しい知識を得る喜びや本から学んだ事を自分の生活に置き換えて考える力がついたのではないのでしょうか。



『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

